

生い立ち

子どもの時子どもでいることは、不思議や好奇心、希望と夢にあふれた時間だと思います。あの時は、むじゃきで、元気で、毎日(まいにち)が楽しいいたずらのようでした。たくさんのたんけんや学びや遊びがある時です。ゆめを見て、人生の大切な土台をつくりながら、シンプルなことを楽しむ時間でした。

わたしが子どものころ、わたしは友だちと外で遊ぶことが大好きでした。近所で自転車にのったり、かくれんぼをしたり、たくさんわらいながら遊びました。週末や夏には川で泳ぐことも大好きでした。

大きくなる中で、わたしは両親、とくに父がきびしかったことを覚えています。母は海外で働いていたので、ほとんど父と祖父母に育てられました。わたしは母の両親の家に住んでいました。小さいころ、わたしは父がこわかったです。まちがいをすることがとてもこわかったです。

わたしと姉が外で遊んでいる時、父のトライシクルのエンジンの音が聞こえると、すぐに家(いえ)に帰りました。おこられるのがこわかったからです。昼には昼寝をしなければなりません。 「昼寝をすると背が高くなる」と言われていましたが、わたしは全ぜん大きくなりませんでした。小さい時から、家のそうじやごはんをたくななどの家事も学びました。

学校もわたしの子どもの時代の大切な部分でした。新しい学年が始まる時、わくわくしました。新しい友だちや先生に会うことが好きでした。先生に学ばれながら、新しいことを見つけるのが楽しかったです。

小学校の時、休み時間には校庭のブランコ、すべり台、うんていでよく遊びました。勉強では、わたしは少し負けずぎらいでした。わるい点をとにかくないので、一生懸命勉強しました。部活や活動はあまりしませんでした。成績にひびかないようにがんばりました。

大きくなるにつれて、だんだん生活が変わりました。高校や大学のころは、「学校と家」だけの生活でした。クラスメイトとあまり出かけず、家にいることが好きでした。そのため友だちは少なかったですが、家族と過ごす時間が大好きでした。

そして大人になると、子どものころの自由な時間は、しだいに責任にかわりました。大学を卒業した後、親を助けるためにマニラに行き、仕事をさがしました。これは、両親の苦勞や支えに「お返し」するためでした。

子どものころの思い出を思い出すと、とても大切(たいせつ)だったと気づきます。学んだこと、楽しかった冒険、そしてわたしを今のわたしにしてくれた人たちに、とても感謝しています。これらの思い出は、わたしの心にずっと残り、大切にしていきます。